

事業進捗状況評価表に対する質問(第3回・第4回会議関係)

○ 事業進捗状況評価表3 (8~31ページ)

ページ数	番号	事業名称	担当課	質問	委員名	事務局コメント
8	3	子どもの人権講座	公民館	<p>【会議開催前の質問】 各学校で配布をお願いした講座案内チラシが配られていないと聞きます。市の事業に関する情報が必要な方に届かない可能性があります。そのことについて、市の考えを教えてください。</p> <p>【会議開催前の公民館回答】 公民館の講座は市報、ホームページでお知らせしております。ちらしにつきましては、公民館各館以外の施設での配布はお願いする立場であり、当該施設の判断に委ねています。</p> <p>【会議時の質問】 人権講座のチラシについて、小学校の方で人権講座のチラシが配られたところと配られていないところがあった。理由について問い合わせをしたが、その施設の判断に委ねているとの回答をいただいた。市の事業として行っているものは、公平に情報を受け取るようにしていただきたいので、学校でもぜひ配っていただきたい。そのような形でぜひ改善できないかと思ひ、こちらに書かせていただいたが、「委ねています」との回答だが、改善できないのか。</p>	北脇	公民館に限らず市からの情報発信は、市報及びホームページで行っており、それらで公平性は担保されていると考えています。それ以外の媒体、例えばちらしの配布についてを公民館以外の施設において行う場合、公民館は依頼する立場であり、当該施設の判断にとどまります。
10	4	子どもを見守る家(カンガルーのポケット)	指導室	カンガルーポケットの登録件数について、平成25年度は1,326件だったが、平成28年度は1,195件で、約100件程度減っている。100件減っているが、「安定的な確保が図れている」との記載があったが、そもそも1,200件というのが安定的に確保されている数字なのか分からない。また、今後増やしていくための取組みは何か行っているのか。市報等で募集をかけないのか。	窪田	健全育成推進協議会において、いただいたご意見を紹介します。登録件数を増加させるための取組についても、同協議会の中で検討します。
11	1	子どもの体験事業	公民館	平成27年度と平成28年度を比較すると、平成28年度は開催場所が減っているのになぜ評価がBからAに上がっているのか。子どもの通える範囲を考慮すると、一つの館だけではなく、他の館、特に坂下の館でも実施していただきたい。	北脇	平成27年度＝2館・4講座63人、夢農園5回79人 平成28年度＝1館・4講座95人、夢農園7回120人 参加者の増加によりA評価としました。
				参加者数は増えているが、開催場所の減少も考慮すると、BからAにあげるまでには至っていないのでは。2つの講座の開催場所を同じ公民館緑分館にした理由は。	水津	実施館を2館から1館に統合してもなお参加者が増加したことは、高く評価できると考えます。
			生涯学習課	<p>【会議開催前の質問】 清里山荘の自然体験教室は自然の中で子どもの自主性を育むことができる事業なので参加者が減っているのはとても残念です。市報の案内のほかにチラシなどの掲示物を見たことがないように思います。全生徒にチラシ配布するなど、広報を工夫して欲しいと思いますがご検討頂けますか。</p> <p>【会議開催前の生涯学習課回答】 自然体験教室については、ここ数年、定員を上回る申込みをいただいておりますが、直前のキャンセルが出て定員を欠けるという状況となっています。チラシの配布を含めたPR方法については、指定管理者と検討いたします。</p> <p>【会議時の質問】 直前キャンセルについてはキャンセル料を取るなど、欠員をできる限り減らすようにできないのか。</p>	北脇	キャンセルが出た場合、別のお子さんへの声掛けを行っていますが、直前キャンセルの理由は、風邪やインフルエンザ等の体調不良の場合が多く、対応が難しい状況もありますが、なるべく欠員が出ないよう指定管理者と検討いたします。
				27年度と28年度の定員数と申込者数は。評価表に記載するようにしていただきたい。	鈴木・森川	今後は定員数、申込者数を記載するようにいたします。平成27年度、28年度については次のとおりです。 平成27年度 夏 定員数40人、申込者数47人。冬 定員数30人、申込者数35人。 平成28年度 夏 定員数40人、申込者数34人。冬 定員数30人、申込者数37人。
		参加者数を増やすためにどのような取組みを行っているのか。	窪田	内容の決定時期等の問題があり、募集チラシの配付は難しいということがありましたが、より多くの方に認識してもらっているような取組を指定管理者と検討いたします。		

12	4	土曜日における受け入れ事業	公民館	評価の方法は講座数だが、講座数が増えていないのに、評価がBからAに上がっている理由は。	鈴木	前回は「参加人数を評価に加える場合には再検討を。」というご意見をいただきました。参加者数で評価していた部分があるので、今後は評価方法を見直したいと考えています。
				平成28年度の評価の理由の「クリスマスリース作りを…」の一文が、子どもの体験事業(11ページ)の評価の理由の文章と同じだが、同じ講座を評価しているのか。	北脇	記載された評価の理由は、クリスマスリース作り及び子ども囲碁教室に係るものです。
12	5	ボランティア活動への参加	指導室	【会議開催前の質問】 「ボランティアカード」の配布は有効な方法である。スタンプがいっぱいになったら感謝状を出すなどできると、さらに参加意欲が向上するものと考えます。 【会議開催前の指導室回答】 「ボランティアカード」のスタンプがいっぱいになったら景品(粗品)を出しており、参加意欲の向上を図っております。 【会議時の質問】 「ボランティアカード」の景品(粗品)の存在が子どもに知られていないが、うまく周知できないのか。	森川	ボランティアカードの景品の存在については、今後も、校長会・副校長会を通して周知していきます。景品には数に限りがあり、予算措置をしていないので、景品がなくなったらどうするか等については、今後、研究していきます。
				ボランティアカードを5・6年生にも配布しているが、5・6年生に対してどのようにボランティアの場を与えているのか。	古源	ボランティアの場については、各学校が提供しています。今後、計画的にボランティアが実施できるよう、各学校と指導室が連携してまいります。
			児童生徒表彰が実際に行われたのか調査しているのか。	有馬	学校からの推薦により毎年表彰しており、学校が基準に基づいて推薦を挙げてきます。	
			中高生ボランティア参加者数は減少傾向にあるが、何か施策を行ったうえでA評価にしたのか。	水津	児童館では利用児童・生徒の異年齢交流を含む事業において、ボランティア経験が児童・生徒の成長の糧となるよう、毎年度、継続的に中・高校生へボランティア勧誘を行っています。一方で自由来館施設である児童館には、同学年の友達同士で誘い合って利用する子どもが多いため、年度によって同じ世代の児童・生徒が極端に増減する傾向があり、事業内容と単年度の一定年齢幅の参加者増減に相関関係がないことがあります。ご指摘の数字は、確かに27・28年度の単年度比較においては減少傾向ですが、平成22年度以降でみると800人を軸に上下に変動しており28年度についてはその差の範囲と判断しA評価継続といたしました。なお、次年度以降も同様の減少傾向が続くようであれば異なる原因が考えられることから、ご指摘のように対策となる施策が必要になると思われます。	
13	3	校庭、公園等遊べる施設の整備等	生涯学習課	遊び場開放の1回当たりの参加者は14人程度となっているが、スポーツ団体と一般開放との併用では利用しにくい面があるのでは。	古源	小金井市校庭開放事業実施要綱において、登録利用団体の使用条件として、「併用する遊び場開放の場所を確保し、遊び場の安全を確保すること。」と定めております。また、校庭開放の会議時にも登録利用団体に併用についてご説明をさせていただいていることから、遊び場開放について一定のご理解はいただいていると認識しております。

13	4	放課後子どもプラン	生涯学習課	各学校の内容のバラツキがあまりに大きく、不平等である。バラツキがある理由と、バラツキを是正することはできないのか。	北脇	放課後子ども教室は地域のボランティア等に担っていただく等、地域の特性を活かして運営しています。また学校の校庭、体育館、空き教室等の状況に合わせて開催しています。したがって、地域により多少の違いは出ております。9校それぞれ特徴的で充実した内容の放課後子ども教室を実施して頂いています。
				目標値・実施内容が充実となっているが、充実のためにコーディネーターのスキルアップ等のような取り組みを行っているのか。	水津	東京都が主催する放課後子ども教室スタッフ向けの研修や、3市学芸大連携講座に、多くの放課後子ども教室ボランティアスタッフの方に参加して頂いています。また、ほぼ毎月開催される放課後子ども教室実行委員会では、各小学校区のコーディネーター等が集まり、主に現場での困難事例や課題解決に向けて話し合っています。また各小学校区ごとに推進委員会を設け、現場のスタッフで情報共有や新たな企画の提案等、様々な放課後子ども教室の充実に向けて話し合っています。
14	4	小金井市修学援助(奨学資金)	庶務課	予算が増えず受給者数が変わらない中で、申込者が減れば、受給率が高くなることになるが、評価の方法を受給率にしている理由は。予算が増える見込みがあるのか。	有馬	評価の方法は受給者数及び受給率としておりますが、事業実績自己評価は受給者数を基準として評価しております。受給率については参考として掲載しております。予算については現時点では増額の予定はありません。
17	6	思春期相談	指導室	<p>【会議開催前の質問】</p> <p>件数の増加が評価項目ではあるが、実際には必要な問い合わせに必要な時間対応できたかが重要。個別の件数に時間がかかったのならそれはその必要性があったのではないか。相談のニーズを満たしていたのなら評価はAでよい。時間が足りずに相談に対応できないケースがあったのなら評価Bは妥当である。</p> <p>【会議開催前の指導室回答】</p> <p>スクールソーシャルワーカーの対応については、上段に記した通りですが、1件1件関係機関と連携して丁寧に対応する中で、解決までに時間のかかったケースや、相談内容によっては全てのニーズを満たすには困難な事例があります。</p> <p>また、東京都の不登校専門SSWや学芸大学から派遣されているSSWが市のSSWと連携し複数体制で取り組んでいる事案もあります。</p> <p>時間が足りずに相談に対応できなかったケースはございません。</p> <p>【会議時の質問】</p> <p>とてもよくやっている印象を受ける。AからBに下げる理由はないのでは。</p>	鈴木	今後もスクールソーシャルワーカーの対応については充実を図ってまいります。

18	8	子育て講座の開催	生涯学習課	<p>【会議開催前の質問】 思春期子育て講座をBからAにしている根拠は何ですか？参加者の増加だけですか？</p> <p>【会議開催前の生涯学習課回答】 参加者の増加に対して評価をいたしました。</p> <p>【会議時の質問】 実施が12校から14校になっただけでBからAになるのは疑問。特別な働きかけをしたなどのポイントはあるのか。</p>	水津	実施校が増加したのみで評価したのではなく、14校中10校が参加者数が増加していることもあり、A評価とさせていただきます。
				<p>【会議開催前の北脇委員の質問】 思春期子育て講座・家庭教育学級について各学校で内容が違うため、他校の会に参加したいと思うことがありますが、参加を申し出ても断られることがあると聞きます。思春期子育て講座は1校平均で47.1名、家庭教育学級は1校平均で216名参加とみるとあまり高い参加率だと思えません。特に思春期子育て講座では人数が集まらず二次募集などして苦労して集めている実情があります。それならば、広報を工夫し、例えば市報に載せるのを許可し、他校からも広く受け入れた方が良くと思いますが、市の考えを教えてください。</p> <p>【会議開催前の生涯学習課回答】 各講座につきましては、学校施設を使用させていただいている関係もあり、他校の方の参加等の参加者の範囲につきましては委託先の判断に任せているところです。 周知の方法についてですが、思春期子育て講座につきましては、前年度多くのご意見をいただいていることも踏まえ、検討した結果、より多くの市民の方に情報が行き渡る様に平成29年度より市報への掲載を認めております。</p> <p>【会議時の小川委員の質問】 委託先の担Pの判断で「来てよい、悪い」と決めるのは違うのでは。P連の中で、相互に行けることを確認しておくことが必要では。 また、「平成29年度より市報への掲載を認めております」とはどういう意味か。どこがどのように認めたのか。</p>	小川	生涯学習課が掲載希望がある学校について、原稿用紙にご記入いただきご提出していただく形をとり、掲載を認めております。